

並列処理対応可視化システム AVS/Express PST の導入・ご利用開始のお知らせ

東京大学情報基盤センター

東京大学情報基盤センターでは、HA8000 クラスタシステム向け並列処理対応可視化システム「AVS/Express PST¹」を導入しました。2009年6月からご利用いただく予定です。

「AVS/Express PST」は可視化処理ソフトウェアとして広く利用されている「AVS (Advanced Visual Systems)」の並列版で、並列計算機を使って実施した大規模シミュレーションによって得られる分散ファイルを読み込んで可視化することが可能です。

可視化において重要な要素の一つはインタラクティブ性です。「AVS/Express PST」は、本来はPCクラスタ上で稼動するシステムですが、情報基盤センタースーパーコンピューティング研究部門と開発元である株式会社ケイ・ジー・ティーの協力により、HA8000 クラスタシステムのバッチジョブ環境において、研究室のPCクラスタと同等なインタラクティブな操作が可能な環境を整備いたしました。

HA8000 クラスタシステム上での「AVS/Express PST」利用環境の特徴は以下の通りです：

- AVS/Express PST 用の専用キューを準備します。本専用キューは HA8000 システムの全てのユーザーが利用可能です。AVS/Express PST の起動はバッチジョブによって実施しますが、起動後の操作はインタラクティブに行なうことができます。
- ライセンスの都合で、一回に同時に利用できるユーザーは1名です。上記専用キューの制限時間は 120分 で、これが一回の利用時間の上限となります。
- 使用ノード数上限は4ノード(64コア)です。1ノードあたり128GBのメモリを搭載した特殊なノードを使用します。起動可能なプロセスは1ノードあたり16、合計64までですので、これより多い数の分散ファイルは読み込めません。
- 使用方法についてはオンラインマニュアルをご覧ください。

起動・利用方法の詳細については、近日中にスーパーコンピューティング部門ホームページ (<http://www.cc.u-tokyo.ac.jp>) に掲載いたしますので、そちらをご覧ください。

¹ <http://www.kgt.co.jp/feature/pst/>